

論文審査の結果の要旨

濱岡和宏氏（埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科 大学院生）の学位審査委員会を平成25年3月22日に開催した。学位申請論文の表題は、「C型肝炎ウイルス感染者の肝発癌における性差を規定する宿主要因：オステオポンチン遺伝子プロモーターSNPsの意義（SNPs in the Promoter Region of Osteopontin Gene as a Possible Host Factor for Sex Difference in Hepatocellular Carcinoma Development in Patients with HCV）」であり、内容は *Hepatology International* 誌に電子版掲載されている。

C型慢性肝炎では病態に性差が認められる。その性差を生じる一つの原因として、濱岡氏はオステオポンチン遺伝子に注目した。オステオポンチンが肝炎の初期段階で働いていると推定されている遺伝子であることが、その理由である。濱岡氏は、オステオポンチンプロモーターのSNPを検索し、日本人における連鎖不平衡ブロックを見つけ、また、各SNP型、haplotype型と、慢性肝炎病態との関連、肝癌発症との関連を検索した。さらに、オステオポンチン遺伝子プロモーター領域をcloningし、ルシフェラーゼアッセイによりSNP型と転写活性との関連に関して検討した。

口頭発表後に、審査委員から約10点に関して質問が出た。審査員から、患者血清ALT、AST活性とosteopontin (OPN) 活性との関連の有無、肝癌発生との有無、osteopontinの発現部位、whole genome approachによる関連遺伝子の検索、多重検定補正、ChIP assayの利用、SNP頻度の民族差などに関する質問が出された。その場で回答できない質問に関しては、後日文書により回答していただくこととした。申請者は質問に対して真摯な回答を提出した。審査委員会はその回答を検討し、満足行く内容であることを確認した。

申請者の学力、態度、人格、および研究内容は、博士の学位にふさわしいと考えられた。学位審査委員会は濱岡和宏氏を「適格」と判定した。

以上、報告致します。

主査 萩原弘一